

長野県（御嶽山）における活動報告

火山防災エキスパート	杉本 伸一氏（雲仙岳災害記念館 館長）
申請団体	長野県
活動日	令和6年11月30日（土）
活動場所	木曽文化公園 文化ホール
活動した取組名	御嶽山噴火10年シンポジウム
参加者	住民、行政機関等 約300人（オンラインを含む）
活動の概要	地域住民の防災意識を図るため、火山噴火後の啓発活動や火山との共生に関する取組をシンポジウムで広く提言する。

【派遣活動の背景】

- 2014年の御嶽山噴火から10年の節目を迎えることを踏まえ、長野県と日本火山学会の共催で「御嶽山噴火10年シンポジウム」が実施された。
- シンポジウムでは、御嶽山噴火以降の火山防災対策や学術研究の進展・課題等に関する紹介や、今後の方向性に関する議論が行われた。また、噴火から10年が経過し当時の様子を知らない行政職員や子どもたちも増えており、地域住民等への啓発が課題とされる。そのため、災害の記憶継承、ビジターセンターや火山マイスターの活動など、火山と共生する地域住民の取組についても議論が行われ、地域住民等への啓発も行った。
- 火山との共生に関する取組を、シンポジウムの場で杉本氏に提言いただくことで、地域住民等の防災意識向上を図った。

【講話の内容】

□ 雲仙普賢岳の噴火概要

- 雲仙普賢岳は、1990年11月17日に198年ぶりに噴火。1991年5月には、新しい溶岩ドームが出現し、その成長過程で次々に崩れて火砕流が発生した。また、雨が降るたびに土石流も発生した。尊い人命が失われ、家屋や田畑、道路、鉄道にも被害を出し、噴火活動は1995年2月に停止した。新しくできた溶岩ドームは平成新山と命名された。

□ 経験の伝承「島原防災塾」

- 噴火災害の経験を伝承するために、壊滅的な被害を受けた島原市の安中・杉谷地区の住民が主体となり、2011年に「島原防災塾」を開講した。噴火災害から時間が経ち、当時の記憶が風化しつつあり、また当時最前線で防災対策にあたってきた人々が、定年を迎えつつあったためである。



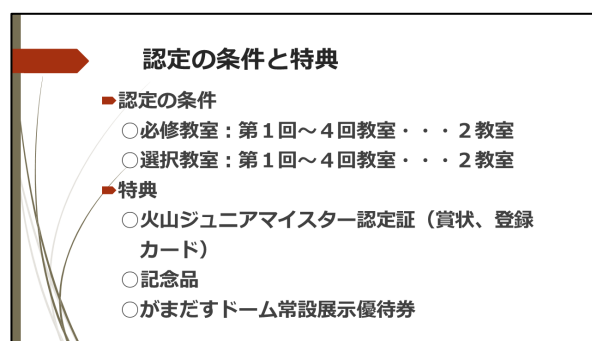
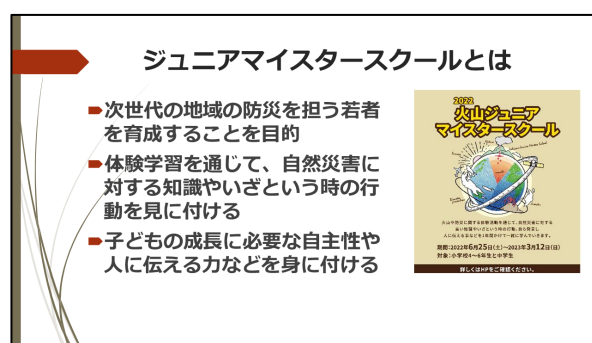
- 島原防災塾は、地域のことを熟知している住民が子供たちに知識を伝授していくものである。将来的にその子供たちが地域のリーダーや島原防災塾の運営を担っていくことで、持続可能な防災教育システムとしている。
- 運営当初は地域住民が実施主体であったが、雲仙普賢岳の噴火災害から30年以上が経過し、記憶の風化と関心の低下が進んでいることから、その継続が困難になった。そのため、島原市や雲仙岳災害記念館、ジオパーク協議会などの各団体が協力の元、持続可能な防災教育システムを構築するために、運営体制やプログラムの内容について検討を続けている。

□ 追悼行事「いのりの灯」

- 雲仙普賢岳の噴火において犠牲となった方々を追悼するとともに、未来を担う子供たちへの災害伝承や地域の防災を学ぶ機会として、2007年火山都市国際会議から、「いのりの灯」というキャンドルづくりと追悼イベントを行っている。
- いのりの灯は、雲仙岳災害記念館、島原市青年会議所、島原商工会議所青年部や地元ボランティア団体などが中心に行い、2024年で18回目を迎える。子供たちが作成したキャンドルに点灯する際、親子で雲仙岳災害記念館を訪れ、雲仙普賢岳の噴火災害や防災について、語り合うきっかけとなっている。

□ 次世代の人材育成「ジュニアマイスタースクール」

- 次世代の地域の防災を担う若者を育成することを目的に「ジュニアマイスタースクール」を実施している。雲仙岳災害記念館が主催し、長崎県教育委員会・九州大学・防災士会などの協力を得て、年必修4回、選択4回の講座を実施している。



【パネルディスカッションでの意見交換】

- ジュニアマイスター取得後の展開はどのようになっているのか。
 - 現在は、取得後の取組はなく、将来的に雲仙岳災害記念館で解説してもらうような展開を目指したい。
- 雲仙岳では、1990年の噴火はそれ以前の噴火から198年ぶりに発生しているため、今後しばらく噴火は発生しないという意見があるのではないか。
 - 今回（1990年～）の噴火は前回の噴火の198年後に発生したので、次の噴火は自分たちが生きている間に発生しないのではという意見はあるが、規則性があるとは限らない。明日噴火するかもしれないという意識で活動している。
- 働き方改革が進む中、登山等の学校行事が少なくなっている。また地元をよく知る先生もいない。そのような中、どのように防災教育を進めるべきか。
 - 山に来てもらう形ではなく、学校に御嶽山火山マイスターが出向き、講座をする形で防災教育に関わっていく方法が考えられる。
- 御嶽山火山マイスターは、個人の資格であるが、任意団体を作って活動している。組織を維持し、災害の伝承を行っていきたいが、どうすべきか。
 - 島原半島ジオパークのガイドも、ガイドの会を組織し、組織的に活動している。災害の教訓を伝承していくにあたって、何をどうやって伝えていくのかを情報共有しながら活動することが重要である。

【活動の様子】

